

ぶどう色の夢

ワイン産地化10年



● 中 ●

10月のワインフェスタについて打ち合わせる「新潟ワインコースト」のメンバーら＝新潟市西蒲区

新潟市西蒲区角田浜周辺でカーブドッチのワイナリー経営塾に学んだ醸造家は、2006年9月に独立した本多孝さん(49)を皮切りに、10年間で4人まで増えた。5ワイナリーとなったのをきっかけに昨年、「新潟ワインコースト」と銘打ち、ホームページなどで海岸イメージと産地のまとまりをアピールし始めた。

中東育ちで、「ワインを通じて世界に話を広げ、飲んで幸せになってほしい」と願う国際派。生命共存科

ら技術を磨く。ことしは自家栽培のイタリア系品種も仕込み始める。

経歴から「産地のPR担当」を自認。集落の祭りに参加し、小学生を収穫に招くなど地域密着の活動に力を入れる。瀬戸さんは「3

65日に寄り添う究極のテーブルワインを造りたい」と意気込む。

4人目で総合コンピューター会社から転身した阿部隆史さん(56)は昨年10月に創業

1度は必ず顔を合わせ、ブドウの出来や最新の醸造技術について情報交換。今月は、10月2日に新潟ワインコーストで開催する「ワインフェスタ」をテーマに、盛り上げ方をめぐって知恵を絞った。

独立2人目で、最も若い小林英雄さん(38)は、東京の大手コンサルティング会社を退職して08年に経営塾の門をたたいた。11年に創業し、23日に5周年を迎え

3人目の瀬戸潔さん(55)は大手広告代理店出身で、目「候補として元情報処理会社社長の波多野伸二さん(43)が塾生となり、醸造を学ぶ。

五本の矢

10月に創業

豊かな個性高め合おう

米の名産地を参考に展開

県内全体でも9ワイナリーが立地するようになったが、全国的には山梨や長野、北海道などの知名度には遠く及ばない。

カーブドッチの今井卓社長(49)は「創業当初に思ったよりも集積は順調に進んだが、全国に強力な産地は多い。まとまりを強く打ち出すことで、『新潟のワイン』の存在感を高めたい」と語った。

もともとカーブドッチは、欧州系のブドウ品種を扱う一方、事業展開では米国の名産地ナパバレーをイメージ。産地の集積目標は10ワイナリーと見据える。

し、2度目の仕込みを迎えた。8月末からは「5人目」候補として元情報処理会社社長の波多野伸二さん(43)が塾生となり、醸造を学ぶ。

